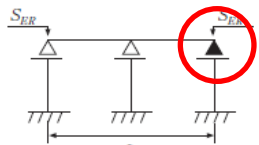
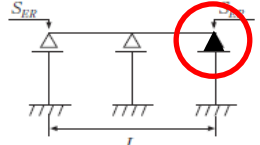


ページなど	誤	正	備考	摘要
P281 13.3.3解説 図-解13.3.3	※矢印部分の長さが橋軸方向の桁かかり長相当分の相対変位より小さい場合は安定した状態で残存しなくなると判断	※矢印部分の長さが橋軸方向の必要桁かかり長相当分の相対変位より小さい場合は安定した状態で残存しなくなると判断	「桁かかり長」→「必要桁かかり長」	①2018.2.2掲載 ②第2刷で訂正
P233 9.6解説	コンクリートの応力度-ひずみ曲線は6.2.3(1)の規定、鉄筋の応力度-ひずみ曲線は6.2.3(2)の規定に基づき、	コンクリートの応力度-ひずみ曲線はⅢ編5.5.1(3)3)の規定、鉄筋の応力度-ひずみ曲線はⅢ編5.5.1(3)4)の規定に基づき、	「6.2.3(1)」→ 「Ⅲ編5.5.1(3)3)」、 「6.2.3(2)」→ 「Ⅲ編5.5.1(3)4)」	①2021.6.3掲載 ②第5刷で訂正
P125 5.2解説	<p>iii)基礎と地盤間の抵抗特性</p> <p>地盤は、極めて非線形性が強い特性を有しているが、一般にはその非線形性は等価剛性によって表わされ、また、基礎は一般には降伏しないように設計されるため、<u>基礎と地盤間の抵抗特性を表すばねは線形要素によりモデル化してよい。</u>ここで、<u>基礎と地盤間の抵抗特性を表すばねは</u>、一般には、水平ばね、鉛直ばね及び回転ばねにより構成される。基礎の抵抗を表すばね定数は、式(解4.1.2)及び式(解4.1.3)による地盤反力係数の基準値を用いて算出する。</p> <p>7.2に規定される液状化が生じると判定される地盤がある場合の<u>基礎と地盤間の抵抗特性</u>に関しては、未だ技術的知見が十分ではないため、これを考慮した動的解析を用いた設計手法については確立されていない。</p>	<p>iii)基礎と地盤の抵抗特性</p> <p>地盤は、極めて非線形性が強い特性を有しているが、一般にはその非線形性は等価剛性によって表わされ、また、基礎は一般には降伏しないように設計されるため、<u>基礎と地盤の抵抗特性を表すばねは線形要素によりモデル化してよい。</u>ここで、<u>基礎と地盤の抵抗特性を表すばねは</u>、一般には、水平ばね、鉛直ばね及び回転ばねにより構成される。基礎の抵抗を表すばね定数は、式(解4.1.2)及び式(解4.1.3)による地盤反力係数の基準値を用いて算出する。</p> <p>7.2に規定される液状化が生じると判定される地盤がある場合の<u>基礎と地盤の抵抗特性</u>に関しては、未だ技術的知見が十分ではないため、これを考慮した動的解析を用いた設計手法については確立されていない。</p>	「基礎と地盤間」→ 「基礎と地盤」	①2021.6.3掲載 ②第5刷で訂正
P288 13.3.5解説	図-解13.3.10(b)の一番下の図 右端の支承が可動支承 	図-解13.3.10(b)の一番下の図 右端の支承が固定支承 		①2021.6.3掲載 ②第5刷で訂正